科目名	論理学		
担当教員	村上　博章		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　15 時間
科目のねらい	筋道の通った論理の正しさと深い思索力の涵養		
到達目標	正しく考え，正しい知識を得るため、どんな形式や法則に従わなければならないかを学ぶ		
授業概要	伝統的論理学の基礎をおさえながら論理的思考にとってもっとも大切なことを学ぶ		
授業計画	内容		方法
	伝統的論理学に基づきながら次のようなことを学ぶ 1.思考が人間特有のものであることを理解する 2.正しい思考はどのようにおこなわれるべきかを学ぶ 3.思考はことばで表されるが，ことばに意味があり、ことわりがあるとはどういうことかを考える 4.推理の方法には二つあり，間接推理の方法として演繹的推理と帰納的推理があり，何が違うかを理解する		講義 発表 提出物
使用テキスト	現代大学双書　論理学入門 （学陽書房）		
参考書			
評価基準方法	1.授業参加の態度 2.発表、提出物の状況 3.試験の結果 以上に基づいて，総合的に判断する		
備考・学生へのメッセージ	できる限りよく考えるようになって欲しい．そして自分の言葉で相手にわかりやすく説明できるようになって欲しい．		

科目名	物理学		
担当教員	田村　彰吾		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	看護に必要な科学的ものの見方・考え方を基礎的物理学理論の学習を通じて養い，基礎看護技術および看護日常業務に必要な物理的基礎・背景についての理解を深める.		
到達目標	1. 国際単位系について説明でき換算できる. 2. トルクの考え方を説明でき計算できる. 3. 冷罨法・温罨法の基礎理論となる水の特性について説明できる. 4. 酸素ボンベの圧力計の意味を説明できる. 5. 溶液のpHと様々な濃度の表現方法を説明でき換算できる. 6. 浸透圧の概念を理解し血液の浸透圧について説明できる. 7. 医療に応用されている電磁波の種類と内容について説明できる.		
授業概要	教員が作成したパワーポイントを用いた授業を実施する. 講義の中で演習問題を課す.		
授業計画	内容		方法
	以下の内容について15回で講義する.		
	1. 物を表す様々な単位と換算および医療過誤における単位の間違いについて		講義
	2. 力の合成と分解の体位変換の物理について		講義
	3. 体位変換に役立つトルクについて		講義
	4. 温度の定義と水の特性について		講義
	5. 冷罨法・温罨法の基礎理論について		講義
	6. 圧力・大気圧の基礎知識について		講義
	7. 血圧に関する基礎知識について		講義
	8. 気体の性質の基礎理論（ボイル・シャルルの法則）について		講義
	9. 酸素ボンベの圧力計から使用時間を推測する方法について		講義
	10. 点滴の基礎理論（位置エネルギーと運動エネルギー）について		講義
	11. 酸・アルカリ・pHの考え方と血液と尿のpHおよび酸塩基平衡について		講義
	12. 溶液の様々な濃度の表現方法と計算および相互関係について		講義
	13. 浸透圧の定義、単位、計算および血液の浸透圧について		講義
	14. 医療に用いられる様々な電磁波の種類と応用について		講義
	15. 放射線の持つ特性と医療への応用		講義
使用テキスト	教員が作成する配布資料		
参考書	完全版　ベッドサイドを科学する　看護に生かす物理学　平田　雅子著（学習研究社）		
評価基準方法	授業への積極的参加および試験結果により以下の4段階に評価する. 1.A　2.B　3.C　4.D		
備考・学生へのメッセージ	物理学を学んでいなくても理解可能な授業設計をしております. 不明な部分についてはどんな質問でも歓迎いたします.		

科目名	心理学		
担当教員	菊谷　敬子		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　15時間
科目のねらい	心理学では心をどのように明らかにしてきているのか，心の動きやメカニズム等を学び，人間の行動基盤を理解し，自己を含めた人間について理解する能力を養う.		
到達目標	①心理学とはどのような学問なのかを理解し，説明することができるようになる. ②心の働きを理解し，自己と他者の行動や性質について考えを深められるようになる.		
授業概要	心理学で扱われる考え方，理論，研究手法，実験等を通して，得られた客観的な知見によって心の働きやメカニズムを理解する．心理学の土台となる基礎を学び，知識を身に着けることで自己と他者の理解を深め，さらには，現実現場でどのようにそれらの知識を活用していくかについて考える.		

授業計画

	内容		方法
	単元	講義内容	
1	感覚・知覚	人の感覚や知覚，認知の機能やその特徴について理解を深める.	実験や課題を通して各単元で扱う心理領域の理解を深める.
2	記憶		
3	思考		
4	対人知覚	他者の行動の理解や他者とのかかわり方について理解を深める.	
5	社会的影響		
6	集団		
7	性格	性格の特性について理解する.	
8	心理学と看護	看護における心理学の意味を考える.	

使用テキスト	系統看護学講座　基礎分野　心理学　（医学書院）
参考書	プリントを配布する予定である.
評価基準方法	試験の成績（100%）で評価する.
備考・学生へのメッセージ	「心」とは一体なにか．心理学を学ぶことで，今まで見えていた世界がどのように変わるのか．メディア等でもてはやされているような心理（学）とはギャップを感じる時もあるかもしれませんが，自分の身近で起こっていることも多い⁇!ので，楽しみながら学んでください.

科目名	コミュニケーション		
講師	西尾　直樹		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　15時間
科目のねらい	医療者としての基盤となるコミュニケーションスキルを身につける.		
到達目標	1. コミュニケーションを通して，お互い理解し合える体験をする. 2. 日常で役立つ、効果的なコミュニケーションを身につける.		
授業概要	個人・ペア・グループでの体験学習を通じて，コミュニケーションの技術の習得を目指します.		
授業計画・内容	内容		方法
	1）オリエンテーション 2）自分を知る：ライフラインチャート 3）自分を伝える：わたしの取扱説明書 4）他者を知る：傾聴と質問 5）他者を理解する：ペアインタビュー 6）みんなを知る：話し合い 7）みんなで創る：ワールドカフェ＆レゴワーク 8）まとめ・振り返り		講義・演習 （15時間）
使用テキスト	必要に応じて，講師から資料を配布する.		
参考書	必要に応じて，講師から資料を配布する.		
評価基準方法	1）毎回の感想レポートと振り返り 2）テストの実施		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	情報科学		
担当教員	西尾　直樹		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	ICTを取り入れながら，「情報」と「コミュニケーション」を「看護」の実践への活かし方を学ぶ.		
到達目標	1）情報システムの概要を理解し，一定のリテラシーを身につけている. 2）情報倫理を理解し、医療での倫理規範を身につける.		
授業概要	教科書を分担しての発表，グループでの調べ学習などを通して，情報リテラシーを身につける.		
授業計画	内容		方法
	＜1. 情報と情報化社会＞ 1）情報の定義と特徴 2）情報化社会で求められること 3）コンピューターリテラシーとセキュリティ ＜2. 情報と倫理＞ 1）情報倫理とは，プライバシーと守秘義務 2）個人情報の取扱 ＜3. 看護と情報＞ 1）看護における情報. 情報化社会と看護 2）医療における情報システム ＜4. 情報の利用＞ 1）文献検索の方法 2）調査によるデータ収集方法		講義・演習 （30時間）
使用テキスト	エッセンシャル看護情報学　2025年版　（医歯薬出版）		
参考書	必要に応じて，講師から資料を配布する.		
評価基準方法	1）毎回の感想レポートと振り返り 2）調べ学習によるレポート 3）テストの実施		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	国語表現法		
担当教員	大川　良輔		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	すべての学科の基礎となる国語力・国語表現力を養う.		
到達目標	文章を書く上での規則や，国語表現について学ぶ. 文章を書く訓練を行い，自分の考えを表現する力を身に着ける.		
授業概要	授業中に，短い課題（レポート）を数回作成してもらいます．詳細なスケジュールは第1回目講義のガイダンスで指示します.		

授業計画	内容	方法
	第1回目　ガイダンス（レポートとは何か）・原稿用紙の割り付け	講義
	第2回目　レポートの文章表現（文末表現・語彙）	講義
	第3回目　レポートの構成（3部構成）	講義
	第4回目　アウトラインの作成	講義
	第5回目　要約と引用・他人発の情報を使用する際の注意	講義
	第6回目　情報源の明示・参照文献欄の作成	講義
	第7回目　容認→反論を含む論説文	講義
	第8回目　ブレインストーミング（抽象的なテーマから問題を設定する）	講義
	第9回目　容認→反論を含む文章の構成	講義
	第10回目　容認→反論を含む課題の作成（演習）	演習
	第11回目　容認→反論を含む課題の作成（演習の続き）・「文ののねじれ」の修正	演習
	第12回目　資料の要約・最終課題の投稿規定について	講義
	第13回目　最終課題の作成（演習）	演習
	第14回目　最終課題の作成（演習の続き）	演習
	第15回目　最終課題の相互添削・その他のレポートの書き方	講義

使用テキスト	教科書は使用しない．資料は適宜配布する.
参考書	
評価基準方法	出席状況と課題内容で評価します.
備考・学生へのメッセージ	

科目名	人間発達学		
担当教員	魯　彦		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　15時間
科目のねらい	生命の誕生から死にいたるまでの人間発達について学び，看護の対象者となる「人間」を理解する能力を養う.		
到達目標	1．誕生から死にいたるまでの生涯における各発達段階の特徴が理解できる. 2．人間の成長は青年期にとどまらず，老年期まで生涯にわたって続くものであることを理解できる. 3．人間の成長発達は対人関係の中で構築されていくものであることを理解できる.		
授業概要	誕生から死にいたるまでの生涯における各発達段階の特徴を取り上げて紹介する. そして，各発達段階が抱える心理・社会的課題とウェルビーイングを考察していく. 座学が中心だが，適宜グループワークで論議を行う．毎回ミニレポートを課す.		
授業計画	内容		方法
	1．人間発達の心理・社会的課題とウェルビーイング 2．乳幼児期の心理・社会的課題とウェルビーイング 3．児童期の心理・社会的課題とウェルビーイング 4．青年期の心理・社会的課題とウェルビーイング 5．成人期の心理・社会的課題とウェルビーイング 6．老年期の心理・社会的課題とウェルビーイング① 7．老年期の心理・社会的課題とウェルビーイング② 8．終末期の心理・社会的課題とウェルビーイング		講義 グループワーク ミニレポート （15時間）
使用テキスト	ウェルビーイングの社会学　（北海道大学出版会）		
参考書			
評価基準方法	毎回のミニレポート60%と授業終了後レポート40%により評価する.		
備考・学生へのメッセージ	ぜひ人間発達学の勉強を通して，患者のQOL（生活の質）とウェルビーイングを考えてみてください.		

科目名	解剖生理学　Ⅰ		
担当教員	鈴木　智亮（16時間）　大平　浩司（14時間）		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	生命現象の機序を学び，正常な人体の構造と機能を理解する.		
到達目標	解剖生理を学ぶための基礎を理解する. 運動器の正常な構造と機能を理解する. 消化器の正常な構造と機能を理解する.		
授業概要	正常な人体の構造とその働きを知り病態への変化の理解が深まることを目指す.		
授業計画	内容		方法
	≪ 鈴木講師　16時間≫ 1 人体とはどのようなものか 2 人体の素材としての細胞・組織 3 構造と機能からみた人体 4 骨格とはどのようなものか 5 骨の連結 6 骨格筋・体幹の骨格と筋 7 上肢の骨格と筋 8 下肢の骨格と筋 9 頭頂部の骨格と筋 10 筋の収縮 ≪大平講師　14時間≫ 1 消化器解剖概論 口・咽頭・食道の構造と機能 2 腹部消化管の構造と機能 3 肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能 3大栄養素 4 腹膜の構造と機能		講義（30時間）
使用テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　人の構造と機能[1]　解剖生理学　（医学書院）		
参考書	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[5]　消化器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[10]　運動器　（医学書院）		
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する. 試験配点　鈴木講師　55点　大平講師　45点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	解剖生理学Ⅱ		
担当教員	上村　明（14時間）　川上　翔太朗（14時間）　打田　武史（2時間）		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	生命現象の機序を学び，正常な人体の構造と機能を理解する.		
到達目標	呼吸器の正常な構造と機能を理解する. 循環器の正常な構造と機能を理解する. 耳鼻咽頭の正常な構造と機能を理解する.		
授業概要	正常な人体の構造とその働きを知り病態への変化の理解が深まることを目指す.		
授業計画	内容	方法	
	≪上村講師　14時間≫ 1 呼吸器の構造と機能 2 呼吸運動のメカニズム 3 換気量・肺循環・血流・呼吸運動 ≪川上講師　14時間≫ 1 循環器系の構造 2 心臓の構造 3 血圧・心臓の生理 4 循環病態生理 5 高血圧について ≪打田講師　2時間≫ 1 耳鼻咽頭の構造と機能	講義（30時間）	
使用テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　人の構造と機能[1]　解剖生理学　（医学書院）		
参考書	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[2]　呼吸器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[3]　循環器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[14]　耳鼻咽頭　（医学書院）		
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する. 試験配点　上村講師　45点　川上講師　45点 打田講師　10点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	解剖生理学Ⅲ		
担当教員	山中　康也（22時間）　千徳　敏克（4時間）　明石　更紗（4時間）		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	生命現象の機序を学び，正常な人体の構造と機能を理解する.		
	内分泌の正常な構造と機能を理解し，代謝・体温の正常な機能を理解する. 眼の経常な構造と機能，および眼疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する. 口腔機能の正常な構造と機能，役割の重要性を理解する.		
授業概要	正常な人体の構造とその働きを知り病態への変化の理解が深まることを目指す.		
授業計画	内容		方法
	≪山中講師　12時間≫ 1 自律神経による調整 2 ホルモンについて 視床下部・下垂体 甲状腺・副甲状腺・膵臓・副腎 性腺その他 3 内分泌器官の構造と機能 4 内分泌器官とホルモンの機能 5 ホルモンによる調整 ≪山中講師　10時間≫ 1 生体の防御機構 非特異的防御機能・特異的防御機能 生体防御機能の関連臓器 2 体温とその調整 ≪千徳講師　4時間≫ 1 歯牙・歯周組織の解剖 ①硬組織の構造 齲歯の成因・組織隙 ②歯周組織の構造 歯周病の成因 2 口腔機能 ①咀嚼 ②嚥下 誤嚥性肺炎・口腔ケア ≪明石講師　4時間≫ 1 眼の構造と機能 2 眼疾患の症状とその病態生理 3 眼疾患の検査と治療・処置		講義（30時間）
使用テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　人の構造と機能[1]　解剖生理学　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[15]　歯・口腔　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[13]　眼　（医学書院）		
参考書	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[6]　内分泌・代謝　（医学書院）		
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する. 試験配点　山中講師 70点（40点・30点）　千徳講師 15点　明石講師 15点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	解剖生理学Ⅳ		
担当教員	小濱　好彦（18時間）　楠　由宏・吉川　純平（10時間）　片野　英典（2時間）		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	生命現象の機序を学び，正常な人体の構造と機能を理解する.		
到達目標	脳神経の正常な構造と機能を理解する. 腎泌尿器の正常な構造と機能を理解する.		
授業概要	正常な人体の構造とその働きを知り病態への変化の理解が深まることを目指す.		
授業計画	内容		方法
	≪小濱講師　18時間≫ 1 神経系の構造と機能 2 脊髄と脳 3 脊髄神経と脳神経 4 脳の高次機能 5 運動機能と下行伝導路 6 感覚機能と上行伝導路 ≪楠講師・吉川講師　10時間≫ 1 腎臓の構造と機能 2 体液の調整 電解質異常・酸塩基平衡 ≪片野講師　2時間≫ 1 男性生殖器の構造と機能		講義（30時間）
使用テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　人の構造と機能[1]　解剖生理学　（医学書院）		
参考書	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[7]　脳・神経　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[8]　腎・泌尿器　（医学書院）		
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する. 試験配点　小濱講師　60点　楠講師・吉川講師　30点 片野講師　10点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	生化学		
担当教員	小関　俊成		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　15時間
科目のねらい	生命現象の機序を物質レベルで学び，生命科学の基本を理解する.		
到達目標	生化学は，「人の体」に関わる資格を持つ看護師にとって必須項目である．本授業において身体で何が形成されているか，それらが体内で起こる（異化・同化）様々なことについて理解することを目標とする.		
授業概要	生化学を学ぶことで病態の理解を深める力につなげる．教科書に沿ってすすめる.		

授業計画	内容	方法
	第1章　生化学を学ぶための基礎知識 第2章　代謝の基礎と酵素・補酵素 代謝と生体のエネルギー，酵素とは，酵素の特性，酵素の種類 第3・4章　糖質の構造と機能，糖代謝 糖質とは，種類，機能，消化・吸収・分解・代謝 第5・6章　脂質の構造と機能，脂質代謝 脂質とは，種類，リポタンパク質と脂質の代謝 消化・吸収・分解・合成 第7・8章　タンパク質の構造と機能，タンパク質代謝 タンパク質とは，種類，消化・吸収・分類・合成 第9章　ポルフィリン代謝と異物代謝 第10～13章　遺伝情報とその発現 遺伝子と核酸，遺伝子の複製・修復・組み換え，転写， 翻訳と翻訳後修飾 第14章　シグナル伝達 シグナル伝達の概要，機序	講義（15時間）

使用テキスト	系統看護学講座　人の構造と機能[2]　生化学　（医学書院）
参考書	
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する.
備考・学生へのメッセージ	

科目名	栄養学		
担当教員	高橋　佑美		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　15時間
科目のねらい	生命維持に必要な栄養素とそのエネルギー代謝について学び，健全な生命活動を営むための基本的知識を養う.		
到達目標	1. 食品および栄養素が生体機能・代謝に及ぼす影響を理解する. 2. 各ライフステージと栄養との関わりについて理解できる. 3. 医療における栄養ケア・マネジメントを理解する.		
授業概要	教科書に沿った内容で進める. スライドを使いながら説明する.		
授業計画	内容		方法
	1　栄養学と看護 2　栄養素の種類とはたらき 3　食物の消化と栄養素の吸収・代謝 4　体内のエネルギーバランス 5　食品と食事 6　栄養ケア・マネジメント 7　ライフステージと栄養		講義（15時間）
使用テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[3]　栄養学　（医学書院）		
参考書			
評価基準方法	出席状況・講義終了後の試験で評価する.		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	病理学総論		
担当教員	岡本　賢三		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　15時間
科目のねらい	病理学総論を学習する事よって様々な病気を科学的に理解していくための基本的な知識を得る.		
到達目標	病因と病変によって生体の臓器組織に現れる形態・機能・代謝の変化を理解する.		
授業概要	教科書に沿った内容で進めていく. 教科書に書かれていることをしっかりと理解していくために, スライドを使いながら解説していく.		
授業計画	内容		方法
	1 病気と病理学 2 老化と死 3 組織・細胞に生じる異常と修復 4 炎症 5 免疫とその異常 6 止血と循環 7 先天異常 8 感染症 9 癌 10 環境による疾患—喫煙・アスベスト 11 難病・免疫不全・自己免疫性疾患		講義（15時間）
使用テキスト	新体系　看護学全書　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進①　　病理学（メヂカルフレンド社）		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する.		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	病態生理学　Ⅰ		
担当教員	川上　翔太朗（16時間）　高階　太一（14時間）		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	疾病の原因・病態・症状・診断・治療について理解する.		
到達目標	呼吸器系疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する. 循環器系疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する.		
授業概要	教科書に沿った内容で進める. 必要時には資料やスライドなどを活用し説明する.		
授業計画	内容		方法
	≪高階講師　14時間≫ 1 呼吸器疾患の症状とその病態生理 2 呼吸器疾患の検査と治療・処置 3 呼吸器疾患の理解 肺がん 閉塞性肺疾患・拘束性肺疾患・びまん性肺疾患 肺炎（細菌性・非定型） その他の肺感染症 ≪川上講師　16時間≫ 1 循環器疾患の症状とその病態生理 2 循環器疾患の検査と治療・処置 3 循環器疾患の理解 虚血性心疾患 心筋梗塞 心不全 高血圧 不整脈 弁膜症 心筋症 先天性心疾患		講義（30時間）
使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[2]　呼吸器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[3]　循環器　（医学書院）		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する. 試験配点　川上講師 55点　高階講師 45点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	病態生理学Ⅱ		
担当教員	井戸坂　弘之（16時間）　馬場　力哉（14時間）		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	疾病の原因・病態・症状・診断・治療について理解する.		
到達目標	脳神経系疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する. 運動器系疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する.		
授業概要	教科書に沿った内容で進める. 必要時には資料やスライドなどを活用し説明する.		
授業計画	内容		方法
	≪井戸坂講師　16時間≫ 1 脳神経疾患の症状とその病態生理 2 脳神経疾患の検査と治療・処置 3 脳神経疾患の理解 くも膜下出血・脳出血 脳梗塞 脳挫傷・頭部外傷 水頭症 脳感染症 てんかん・脱髄・変性疾患 認知症 ≪馬場講師　14時間≫ 1 運動器疾患の症状とその病態生理 2 運動器疾患の検査と治療・処置 3 運動器疾患の理解 骨折・脱臼・捻挫 骨関節の炎症性疾患 骨腫瘍・軟部腫瘍 神経疾患 脊椎疾患		講義（30時間）
使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[7]　脳・神経　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[10]　運動器　（医学書院）		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する. 試験配点：井戸坂講師 55点　　馬場講師 45点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	病態生理学Ⅲ		
担当教員	會澤　佳昭（10時間）　藤原　豊（10時間） 髙橋　桂（8時間）　審　一範（2時間）		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	疾病の原因・病態・症状・診断・治療について理解する		
到達目標	血液疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する. 内分泌代謝疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する. 感染症・アレルギー・膠原病疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する. 耳鼻科疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する.		
授業概要	教科書に沿った内容で進める. 必要時には資料やスライドなどを活用し説明する.		
授業計画	内容		方法
	≪會澤講師（10時間）≫ 1 血液の生理と造血の仕組み 2 血液疾患の症状とその病態生理 3 血液疾患の検査と治療・処置 4 血液疾患の理解 赤血球系・白血球系疾患・リンパ系疾患・出血凝固系疾患 ≪藤原講師（10時間）≫ 1 内分泌代謝疾患の症状とその病態生理 2 内分泌代謝疾患の検査と治療・処置 3 内分泌代謝疾患の理解 内分泌系疾患・糖尿病・高脂血症 メタボリックシンドローム ≪髙橋講師（8時間）≫ 1 感染症・アレルギー・膠原病の症状とその病態生理 2 感染症・アレルギー・膠原病疾患の検査と治療・処置 3 感染症・アレルギー・膠原病の理解 ≪審講師（2時間）≫ 1 耳鼻咽頭疾患にあらわれる症状とその病態 中耳炎・突発性難聴・扁桃炎 メニエル病・慢性副鼻腔炎		講義（30時間）
使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[6]　内分泌・代謝　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[11]　アレルギー　膠原病　感染症　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[14]　耳鼻咽頭　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[4]　血液・造血器		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する. 試験配点：　會澤講師　30点　藤原講師 30点 髙橋講師 30点　審講師 10点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	病態生理学Ⅳ		
担当教員	大和　弘明（12時間）　　片野　英典（8時間） 二瓶　岳人（6時間）　　村松　隆一（4時間）		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	疾病の原因・病態・症状・診断・治療について理解する.		
到達目標	消化器疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する. 腎泌尿器疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する. 女性生殖器疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する. 皮膚科疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する.		
授業概要	教科書に沿った内容で進める. 必要時には資料やスライドなどを活用し説明する.		

授業計画	内容	方法
	≪大和講師　12時間≫ 1 消化器疾患の症状とその病態生理 2 消化器疾患の検査と治療・処置 3 消化器疾患の理解 ≪片野講師　8時間≫ 1 腎泌尿器疾患の症状とその病態生理 尿の異常・排尿に関した症状 浮腫―尿毒症 2 腎泌尿器疾患の検査と治療・処置 3 腎泌尿器疾患の理解 ≪二瓶講師　6時間≫ 1 女性生殖器疾患の症状とその病態生理 女性生殖器の解剖発生 月経周期 2 女性生殖器疾患の検査と治療・処置 3 女性生殖器疾患の理解 外陰・膣・子宮の疾患 子宮頸がん・子宮体がん 卵巣腫瘍 ≪村松講師　4時間≫ 1 皮膚疾患の症状とその病態生理 2 皮膚疾患の検査と治療・処置 植皮・湿潤療法 3 皮膚疾患の理解 乾癬・帯状疱疹・真菌症・疥癬・熱傷	講義（30時間）

使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学[5]　消化器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[8]　腎・泌尿器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[9]　女性生殖器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[12]　皮膚　（医学書院）
参考書	
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する. 試験配点：　大和講師 40点　　片野講師 30点 二瓶講師 20点　　村松講師　10点
備考・学生へのメッセージ	

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">病態生理学Ⅴ</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">細川　侑香（12時間）　辻　健志（12時間）
中村　一世 ・ 米澤　拓也（6時間）</td></tr>
<tr><td>配当年度</td><td>1年　前期</td><td>単位数･時間</td><td>1単位　30時間</td></tr>
<tr><td>科目のねらい</td><td colspan="3">疾病の原因･病態･症状･診断･治療について理解する.</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="3">外科系疾患の原因･病態･診断･治療について理解する.
腎不全（透析療法･腎移植）の原因･病態･診断･治療について理解する.
クリティカルな患者の病態･診断･治療について理解する.
心肺停止状態への対応（一次救命処置）について理解する.</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="3">教科書に沿った内容で進める.
必要時には資料やスライドなどを活用し説明する.
一次救命処置を実際に行う.</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業計画</td><td colspan="2">内容</td><td>方法</td></tr>
<tr><td colspan="2">≪細川講師　12時間≫
1 手術侵襲と生体の反応
手術後の創傷管理
感染管理
2 麻酔法, 酸素療法と機械的人工換気
麻酔法
酸素療法
3 外科的治療の基礎
頭部･頸部･肺及び胸部
乳腺
食道･胃十二指腸
大腸
肝臓･胆嚢･膵臓
副腎
≪辻講師　12時間≫
1 救命救急
クリティカルな患者の病態の特徴と生体反応
2 透析療法
透析療法の合併症
3 腎移植
腎不全と腎不全を来す疾患
慢性糸球体腎炎･ネフローゼ症候群･糖尿病性腎症
≪中村講師 ・ 米澤講師　6時間≫
4 心肺停止状態への対応
心肺蘇生法･止血法
一次救命処置の実際</td><td>講義（24時間）

講義（2時間）
演習（4時間）</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="3">系統看護学講座　別巻　臨床外科総論　（医学書院）
系統看護学講座　別巻　臨床外科各論　（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　成人看護学[8]　腎･泌尿器　（医学書院）
系統看護学講座　別巻　救急看護学　（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護学技術Ⅱ　（医学書院）
根拠と事故防止からみた　基礎･臨床　看護技術（医学書院）</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>評価基準方法</td><td colspan="3">出席状況と試験により総合的に評価する.
試験配点　 細川講師 40点　 辻講師 40点　 中村講師･米澤講師 20点</td></tr>
<tr><td>予備･学生へのメッセージ</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

科目名	薬理学		
担当教員	水上　一孝		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	薬物の特徴・作用機序・人体への影響など，薬物を取り扱う際の基礎的知識を理解する.		
到達目標	薬物治療の目的を理解し，薬物の作用機序及び副作用や人体への影響について理解する. 薬物の取り扱いと管理について理解する.		
授業概要	教科書に沿った内容で進める.		
授業計画	内容		方法
	第1部　薬理学総論 第1章　　薬理学を学ぶにあたって 　　薬理学とは，薬物療法の目的 　　薬物療法におけるチーム医療 第2章　　薬理学の基礎知識 　　薬理力学，薬物動態，薬物相互作用 　　薬効の個人差に影響する因子 　　薬物使用の有益性と危険性 　　薬と法律，薬品の保存・管理方法 付録　　看護業務に必要な薬の知識 　　薬に関する単位，処方箋，添付文書（禁忌） 第2部　薬理学各論 第3章　　抗感染症薬 第4章　　抗がん薬 第5章　　免疫治療薬 第6章　　抗アレルギー・抗炎症薬 第7章　　末梢での神経活動に作用する薬物 第8章　　中枢神経系に作用する薬物 第9章　　循環器系に作用する薬物 第10章　呼吸器・消火器・生殖器系に作用する薬物 第11章　物質代謝に作用する薬物 第12章　皮膚科用薬・眼科用薬 第13章　救急の際に使用される薬物 第14章　漢方薬 第15章　消毒薬 付章　　輸液製剤・輸血剤		講義（30時間）
使用テキスト	系統看護学講座　疾病のなりたちと回復の促進［3］　薬理学　（医学書院）		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する.		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	微生物学		
担当教員	高木　祐之		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	微生物の特徴と、細菌・ウイルス・真菌・原虫・寄生虫などの感染が生体に及ぼす影響について学び，正しく対処できるための基礎的知識を養う.		
到達目標	1. 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解する. 2. 感染症を理解し，その予防と治療に必要な基礎知識を理解する. 3.　感染症の最新動向を知る.		
授業概要	教科書に沿った内容で進める. 必要時には資料やスライドなどを活用し説明する. 気候タイミングに合わせて野外実習を含む.		
授業計画	内容		方法
	第1章　微生物の微生物学 第2章　細菌の性質 第3章　ウィルスの性質 第4章　真菌の性質 第5章　感染と感染症 第6章　感染に対する生体防御機構 第7章　滅菌と消毒 第8章　感染症の検査と診断 第9章　感染症の治療 第10章　感染症の現状と対策 第11章　病原細胞と細菌感染症 第12章　病原ウィルスとウィルス感染症 第13章　病原真菌と真菌感染症 附章　寄生虫と衛生動物		講義（30時間） 含，野外実習
使用テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進［4］　微生物学　（医学書院）		
参考書	おたんこナース （小学館）		
評価基準方法	出席状況，態度，反応，試験により総合的に評価する.		
備考・学生へのメッセージ	一緒に感染症について学んでいきましょう. お互いにコミュニケーションを深め楽しく理解できる授業を目指しています.		

科目名	臨床検査（放射線医学含）		
担当教員	亀田　優子（10時間）　畑　力夫（6時間）		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　16時間
科目のねらい	各種検査の意義と，安全・確実な検査実施に向けての基礎的知識を理解する.		
到達目標	医療における臨床検査の役割を知り，各種検査の意義と方法を学ぶ. 患者に正しく安楽に検査を受けていただくための基礎的知識を養う. 各種参加の意義と方法について学び，安全・安楽な検査実施に向けて基礎的知識を養う.		
授業概要	教科書に沿った内容で進める. 必要時には資料やスライドなどを活用し説明する.		
授業計画	内容		方法
	≪亀田講師≫ 1 臨床検査 臨床検査とその役割 臨床検査の流れと看護師の役割 2 主な臨床検査 一般検査 血液検査 化学検査 免疫・血清検査 生理機能検査 ≪畑講師≫ 放射線療法 X線診断 MRI・CT 核医学診断 放射線治療 放射線防御		講義（16時間）
使用テキスト	系統看護学講座　別巻　臨床検査　（医学書院） 系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　（医学書院）		
参考書			
評価基準方法	出席状況・講義終了後のペーパーテストで評価する 試験配点　亀田講師　65点　畑講師　35点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	公衆衛生学		
担当教員	神　和夫		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	個人や集団の健康管理に必要な知識および保健，福祉の連携のために実施されている公衆衛生活動の実態と動向を知り，社会に応用する基礎的能力を養う		
	1. 社会の現状や健康問題，環境問題等を理解する. 2. 組織的な保健活動の重要性を理解する. 3. 人々の健康を維持するための公衆衛生活動の特性を理解する.		
授業概要	教科書に沿った内容で進める. 講師が作成した資料で解説する.		

授業計画	内容	方法
	1. 公衆衛生の理解 公衆衛生の歩み，公衆衛生と健康 （実践における訪問看護・介護支援・介護予防） 2. 人口と公衆衛生 公衆衛生を学ぶ上で重要な指標：人口静態と人口動態，生命表と平均寿命 少子時代の到来と公衆衛生 3. 環境と公衆衛生 環境と公衆衛生健康問題 環境問題の動向と公衆衛生（公害問題の反省，地球温暖化と環境変動） パワーポイント 4. 食と公衆衛生 健康づくりと食，食品保健と健康障害 5. 国民の健康と保健統計 保健統計，健康指標の意義 6. 疾病の疫学と予防 予防医学の意味と分類 疫学及び疫学調査 感染症疾患の予防（外来感染症，再興感染症，新興感染症など） 7. 公衆衛生と健康教育 健康教育と保健活動 8. 公衆衛生活動の実際 母子保健，学校保健，地域保健対策，産業保健，老人保健福祉， 精神保健福祉，難病 9. 保健行政 中央保健行政，地域保健行政，地方衛生研究所，保健所，市町村保健 ンター 10. 公衆衛生における今日的課題と展望 看護をめぐる保健・医療・福祉 国際社会における公衆衛生	講義 （30時間）

使用テキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生　（医学書院） 国民衛生の動向　（厚生労働統計協会） 公衆衛生がみえる　（メディックメディア）
参考書	
評価基準方法	出席状況とペーパーテストにより総合的に評価する.
備考・学生へのメッセージ	

科目名	看護学概論		
担当教員	平山　佳苗		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	看護の概念を理解し,保健・医療・福祉における看護の役割を学ぶ.		
到達目標	・看護の概念,目的及び機能を説明する事ができる. ・人間とはどのような存在か，健康とはどのような状態であるのかについて，自己の考えを表現することができる. ・保健医療福祉の現状を理解し，その中で看護が果たす役割を説明できる. ・看護職の定義，役割，業務について述べることができる. ・看護職における倫理について，自己の考えを深めることができる.		
授業概要	看護の基盤となる科目となります．講義とグループワークにより，理解を深めていきます.		

授業計画	内容	方法
	1．2.　看護を学ぶにあたって 看護とは	講義
	3～6.　看護の定義	講義・GW
	7.　看護の対象の理解	講義
	8.　国民の健康状態と生活	講義
	9.　看護の提供者	講義
	10～12.　看護における倫理	講義・GW
	13.　看護の提供のしくみ	講義
	14.　広がる看護の活動領域	講義
	15.　専門職としての看護	講義・GW

使用テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　看護学概論　（医学書院） 看護覚え書　F.ナイチンゲール　（現代社） 看護の基本となる者　V.ヘンダーソン　（看護協会出版会）
参考書	公衆衛生がみえる　医療情報科学研究編　（メディックメディア）
評価基準方法	筆記試験，レポート，GW参加態度により総合的に評価します. 試験　75点　　レポート・GW　25点
備考・学生へのメッセージ	

科目名	基本技術Ⅰ（コミュニケーション）		
担当教員	森本　千恵子		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　　15 時間
科目のねらい	看護の対象やチームメンバーとのより良い人間関係を形成するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ.		
到達目標	1. 看護・医療におけるコミュニケーション技術の重要性を理解する. 2. 看護の対象やチームメンバーとの関わりの場面でコミュニケーション技術を活用する方法を理解する. 3. 看護実践の場における効果的なコミュニケーションができる.		
授業概要	講義での知識を基盤に演習を行いコミュニケーション技術を習得します.		
授業計画	内容	方法	
	1. 看護におけるコミュニケーション 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4. 看護実践の場に生かすコミュニケーション技術の演習 看護の対象（患者・家族）編 病院・施設スタッフへの報告・連絡・相談編	講義 講義 講義 演習	
使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ　（医学書院）		
参考書			
評価基準方法	筆記試験・授業参加態度などをもとに総合的に評価する.		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	基本技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）		
担当教員	平山　佳苗		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	対象の健康状態をアセスメントする際に用いるバイタルサイン及びフィジカルアセスメントに関する知識・技術・態度を学ぶ.		
到達目標	・ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し，必要とされる技術（バイタルサイン測定・計測・系統別フィジカルイグザミネーション・観察）を習得することができる. ・バイタルサイン測定・計測・系統別イグザミネーション・観察から得られた情報から，対象の健康状態をアセスメントし，実際のケアに結びつかることができる. ・対象に実施するにあたり，適切な態度を養うことができる. ・看護記録の目的と留意点，その構成について理解することができる.		
授業概要	講義の後に，学生相互や看護モデル人形を用いての演習があります．互いに、バイタルサインの測定・身体計測・フィジカルイグザミネーションを実施します．演習後には，測定値・計測値・レポート等の課題があります．また，学習したことを用いて，身近にいる人の健康状態をみる課題も予定しています.		

授業計画	内容	方法
	1.　オリエンテーション ヘルスアセスメント 観察をするために必要な技術	講義
	2・3.　バイタルサイン・身体計測に関する基礎知識	講義
	4・5.　バイタルサインの測定・身体計測の実際	演習
	6.　フィジカルイグザミネーションの基礎知識	講義
	7～10.　身体各部のフィジカルイグザミネーション	講義・DVD
	11.　情報伝達と共有（報告・連絡・相談・記録）	
	12.　呼吸・循環・体温を整える援助	
	13～15.　フィジカルイグザミネーション および呼吸を整える援助の実際	演習

使用テキスト	看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント （メディックメディア） 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　（医学書院） 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図　（医学書院） 緊急度・重症度からみた症状別看護過程＋病態関連図　（医学書院）
参考書	
評価基準方法	授業への参加状況およびレポート等の提出物（30%），筆記試験（70%）を合算し，総合的に評価します．また，血圧測定の技術試験合格を単位認定の必須とします.
備考・学生へのメッセージ	対象の健康状態をアセスメントするには，多くの知識が必要となります．よって，それぞれの授業に関連する解剖生理・病態生理の事前・事後学習をしてください. 演習では，その目的・目標・必要物品・手順・得られた情報からアセスメントする内容についてなど，事前に覚えて臨んでください．また，技術の習得には，反復練習が必要となるので，時間を作って取り組みましょう.

科目名	基本技術Ⅲ（看護過程1）		
担当教員	上山　里奈		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	看護過程展開の意義を理解し，必要な知識・技術・態度を学ぶ.		
到達目標	・看護過程の意義や目的を理解できる. ・看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解できる. ・ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程を展開する具体的な方法を理解し，実施できる.		
授業概要	看護実践に必要な看護過程の基本的事項や要素について講義を行う．それに基づき，健康障害を持つ対象の紙上事例を用いて，看護過程の展開方法について学んでいきます.		
授業計画	内容	方法	
	1．オリエンテーション 看護過程の意義，目的 看護過程の基盤となる考え方（問題解決過程，クリティカルシンキング，リフレクション，倫理的判断） 看護過程における構成要素	講義	
	2．ゴードンの機能的健康パターンの枠組み	講義	
	3．紙上事例の説明	講義	
	4～15．看護過程の各ステップ アセスメント（含，情報収集） 看護問題の明確化と目標設定 全体像 看護計画立案 実施，看護記録 評価	講義・演習	
使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　（医学書院） 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図　（医学書院） 緊急度・重症度からみた症状別看護過程＋病態関連図　（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　（医学書院） 今日の治療薬2025　（南江堂） 看護がみえる vol.4 看護過程の展開　（メディックメディア）		
参考書	専門基礎科目，専門科目の教科書		
評価基準方法	授業への参加状況と紙上事例に関する提出物（55%），筆記試験（45%）を基に，総合的に行う.		
備考・学生へのメッセージ	自ら調べ考える姿勢が重要です．また，思考過程を表現することも求められるので，積極的に参加して看護過程の考え方を習得しましょう. 臨地実習では，この科目の学習が基盤となります．よって，分からないことは質問し早めに解決しましょう.		

科目名	基本技術Ⅳ(看護過程2)		
担当教員	上山　里奈　・　佐藤　彩花		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	看護過程展開の意義を理解し，必要な知識・技術・態度を学ぶ.		
到達目標	・看護援助を行うための基礎的知識が定着できる. ・看護援助を行うための行動計画が記載できる. ・行動計画に基づいた看護援助ができる. ・看護場面について振り返りができる.		
授業概要	紙上事例による模擬患者に対し，観察やフィジカルイグザミネーションを行うと共に，日常生活を支援する関わりを学びます.		
授業計画	内容		方法
	1．オリエンテーション 紙上事例，模擬患者，演習についての説明 行動計画立案の説明 2～10．紙上事例および行動計画の検討 コミュニケーションを通して情報収集を行う演習 11～13．模擬患者に対し，行動計画に基づいた援助の実際 14・15．リフレクション		講義 グループ演習 演習発表 グループワーク
使用テキスト	専門基礎科目，専門科目の教科書，その他各自必要な書籍		
参考書			
評価基準方法	演習参加状況，提出物の提出および内容をもとに総合的に行う.		
備考・学生へのメッセージ	模擬患者さんへの援助場面を考え，看護実践できる基礎を養っていけるように一緒に頑張りましょう. また，この後に実施予定の基礎看護学実習Ⅰにも繋がる科目になります．自己の課題を明確にして，それを解決できるように取り組んでいきましょう.		

科目名	基本技術Ⅴ （安全）		
担当教員	佐藤　隆（7時間）　　平山　佳苗（8時間）		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　　15時間
科目のねらい	・看護活動に伴う危険因子を理解し，安全を守るために必要な知識・技術・態度を学ぶ. ・感染を防止するための技術について学ぶ.		
到達目標	・感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り,看護師が感染防止のための実践を行うことの重要性を述べることができる. ・標準予防策を学び,正しく実践できる. ・感染経路別予防策を学び,適切に実践できる. ・医療器具の管理及び環境整備の意義や重要性を述べることができる.洗浄・消毒・滅菌の実際,感染性廃棄物の取り扱いについて学び,正しく実践できる. ・無菌操作について学び,実践することができる. ・針刺し事故について述べることができる.		
授業概要	佐藤講師の講義では，感染予防の基礎知識と感染経路別予防策について学び，それらが臨床でどの様に活用されているか，感染防御室での活動の実際を学びます．また，演習では感染防止に関する技術のデモンストレーションから，その実際を学びます． 看護学院講師の講義では，佐藤講師の講義を基に，感染防止に関する技術の習得を行います．演習後にはレポートにより，自身の振り返りをおこないます．		
授業計画	内容		方法
	【　佐藤講師　】 1．感染とその予防の基礎知識 2．標準予防策（スタンダードプリコーション） 3．感染経路別予防策 4．洗浄・消毒・滅菌 5．無菌操作 6．感染性廃棄物の取扱い 7．針刺し防止策 8．医療施設における感染管理 9．PPEの着脱・手指衛生 手指衛生 手袋・キャップ・アイシールド・マスク・ガウン		講義 演習
	【　平山講師　】 1．創傷管理の基礎知識 ・皮膚の構造，創傷とその治癒，創傷処置 2．感染予防のための手技 ・手洗い，手指消毒 ・滅菌物の取扱い，無菌操作		講義・演習 演習
使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ　（医学書院） 根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　（医学書院）		
参考書			
評価基準方法	点数配分：佐藤講師 65点　　平山講師 35点 筆記試験・演習参加状況・レポート等の提出物を総合的に評価します. 技術試験では，感染防止に関わる技術（手指衛生・無菌操作・創傷処置）の合格を条件とします.		
備考・学生へのメッセージ	事前・事後学習をして学習を深めましょう．また，日常生活においても，授業で得た知識・技術・態度を意識して実践できるようにしましょう.		

科目名	生活援助Ⅰ（環境・活動・休息）		
担当教員	上山　里奈		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	環境の調整及び日常生活の行動を促進する意義を理解し，必要な知識・技術・態度を学ぶ.		
到達目標	・療養生活の環境を構成する要素を理解し，病室・病床の環境のアセスメントおよび調整することができる. ・姿勢の基礎知識・ボディメカニクスの原理・様々な体位とその目的・移送用具について理解し，安全安楽に援助することができる. ・睡眠と睡眠障害について理解し，睡眠に障害を持つ対象への具体的な援助を考えることができる. ・罨法の種類と身体に及ぼす影響を理解し，安全・安楽に罨法を提供することができる.		
授業概要	療養環境を調整する為に必要な観察・アセスメント・援助の実際を学びます．また，活動および休息に関わる看護に必要な観察・アセスメント・援助の実際を学びます. 講義の後に，学生相互や様々な物品を用いての演習があります．演習後にはレポートの課題があります．技術試験では，移乗・移送，ベッドメーキングがあります.		
授業計画	内容		方法
	1．療養生活の環境，病室環境のアセスメントと調整 環境整備・ベッドメイキング・リネン交換 ボディメカニクス		講義
	2～5．病床の整備の実際（ベッドメーキング）		講義・演習
	6～8．活動・休息の意義とアセスメント 活動・休息への援助 体位変換、良肢位、ポジショニング 廃用症候群の予防，移乗・移送 罨法,転倒転落防止		講義
	9～13．活動・休息への援助の実際		演習
	14～15．病床の整備の実際 （臥床患者のリネン交換，環境整備）		演習
使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　（医学書院）		
参考書	看護がみえる　Vol.1　基礎看護技術（メディックメディア）		
評価基準方法	レポート等の提出物，筆記試験を合算し，総合的に評価します．また，ベッドメーキング，移乗・移送は技術試験があります.		
備考・学生へのメッセージ	日常生活の援助に関する看護技術を学び、患者さんの状態に合わせたケアを根拠をもって実施できるようにしてきましょう.		

科目名	生活援助Ⅱ （食事）		
担当教員	林　美奈子		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　15時間
科目のねらい	食生活の意義を理解し，看護に必要な知識・技術・態度を学ぶ.		
到達目標	・食べることの意義について考えることができる. ・対象の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法を理解できる. ・食事介助と口腔ケアの具体的な方法を理解できる. ・非経口栄養摂取の概略と、経鼻経管栄養法の具体的な方法を理解できる. ・食事における看護師の役割りについて理解できる.		
授業概要	生命を維持するために必要不可欠な「食事」に関する看護について，観察・アセスメント・援助の実際を学びます．その際，「食事」を楽しむことで豊かな生活にもつながることから，人の「食生活」についても考えていきます. テキストとパワーポイントで講義を進めていきます（プリントは適宜配布します）. 食事介助の演習では、各自で食事を準備してもらいます. 各演習後にはレポート課題があります（テーマは講義の中で提示します）.		
授業計画	内容		方法
	1．食事の意義 食事とは 食事援助のアセスメント 栄養状態のアセスメント 水分・電解質のアセスメント 摂食能力・食欲・食に対するアセスメント 食事の種類と形態 2．食事の介助の基礎知識・援助の実際 3．口腔ケア，嚥下訓練 4・5．食事介助，口腔ケア 6．非経口的栄養摂取 経管栄養法，中心静脈栄養法 7．経管栄養チューブの挿入，嚥下剤の滴下		講義 講義 講義 演習 講義 演習
使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ （医学書院）		
参考書	看護技術ベーシックス改訂版 （医学芸術社） 看護技術がみえる　基礎看護技術①② （メディックメディア） その他，適宜提示します.		
評価基準方法	筆記試験とレポート課題・講義参加態度をもとに総合的に評価する.		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	生活援助Ⅲ （排泄）		
担当教員	林　美奈子		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　15時間
科目のねらい	排泄の意義を理解し，看護に必要な知識・技術・態度を学ぶ.		
到達目標	・人間にとっての排泄の意義を理解できる. ・排泄の援助に必要なアセスメントの方法を理解できる. ・排泄の援助方法を理解できる. ・対象に応じた排泄の援助を根拠に基づき説明できる. ・排泄の援助を安全・安楽に配慮して実施することができる.		
授業概要	排泄に関わる看護について必要な観察・アセスメント・援助の実際について学びます. 講義・DVDで学習した後、技術演習を行います. 演習後にはレポート課題があります.		

授業計画	内容	方法
	1．自然排尿・自然排便の基礎知識 排泄のアセスメント 自然排尿・自然排便の援助 トイレ・ポータブルトイレにおける排泄援助	講義
	2．床上排泄の援助 オムツ排泄の援助 陰部の清潔	講義
	3・4．床上排泄の実際 便器・尿器介助 オムツ交換 陰部洗浄	演習
	5．導尿 一時的導尿 持続的導尿	講義
	6．排便を促す援助 グリセリン浣腸 高圧浣腸	講義
	7・8．排尿・排便を促す援助の実際 一時的導尿 持続的導尿 グリセリン浣腸	演習

使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ （医学書院） 根拠と事故防止から見た　基礎・臨床看護技術 （医学書院）
参考書	看護技術プラクティス （Gakken） 看護技術がみえる　基礎看護技術　①② （メディック　メデイア） その他，適宜提示します.
評価基準方法	筆記試験とレポート課題・講義参加態度をもとに総合的に評価する. オムツ交換の実技試験の合格は必須とする.
備考・学生へのメッセージ	

科目名	生活援助Ⅳ （衣・清潔）		
担当教員	廣岡　未咲		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	この科目では，衣生活の調整及び身体清潔の意義を理解し，看護する際に必要な知識・技術・態度を学びます．		
到達目標	・皮膚・粘膜の構造と機能を理解する． ・人間にとって清潔・衣生活の意義について述べることができる． ・清潔援助の効果と心身への影響を理解する． ・清潔援助（清拭，洗髪，部分浴），寝衣交換の援助の目的をふまえ原則に基づき実施すること が出来る． ・対象者への事前の説明ができ，了解を得るための過程をたどることができる． ・清潔援助を通して，患者の観察をすることが出来る． ・清潔援助を実施しながら，対象者の状況に合った言葉かけを実施することが出来る． ・実施した援助を評価することが出来る． ・清潔援助を実践する際に必要な物品の準備・後片付けができる．		
授業概要	生活援助Ⅳでは，身体の清潔の援助を取り上げ，人間にとって清潔・衣生活の意義について学びます．授業は，講義と演習を関連付けて行ないます．演習の事例は，主に臥床患者を想定し，清潔援助・寝衣交換を実施の目的，留意点，根拠を考えながら習得していきます．演習では患者と看護師の役割を全員が体験し，患者としての体験を自身の看護技術向上に生かしていきます．また，学生間で援助についての振り返りも行ないながら学びを深めていきます．授業の最後には，清潔援助の統合として，模擬患者役へ清潔援助を実施し評価する演習も予定しています．		
授業計画	内容		方法
	1．コースオリエンテーション 清潔の意義・清潔援助の効果 衣服を用いることの意義・衣生活の援助 熱産生と熱放散		講義
	2．清潔援助を実施する上での基本的知識 清潔援助に対する看護師の役割と援助の実際		講義
	3．全身清拭・寝衣交換のデモンストレーション		演習
	4～7．全身清拭・寝衣交換		演習
	足浴・手浴・爪切り		DVD
	8．9．臥床での足浴・点滴施行中の寝衣交換 ディスポーザブルタオルでの清拭		演習
	10．11．石けん清拭・フットバスでの足浴・爪切り・手浴		演習
	12．13．洗髪・足浴・手浴・爪切り		演習
	入浴・シャワー浴		DVD
	14．15．技術試験：全身清拭および寝衣交換		演習
	※　演習に関して課題およびレポート提出があります		
使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 （医学書院）		
参考書			
評価基準方法	筆記試験・課題およびレポート提出とその内容・演習参加状況を総合的に評価します．		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	診察援助Ⅰ（与薬）		
担当教員	廣岡　未咲		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	薬物療法の意義を理解し，看護する際に必要な知識・技術・態度を学ぶ.		
到達目標	・薬物の剤型と特徴を理解し，正しい与薬，薬剤の管理方法を学ぶ. ・経口投与，口腔内投与，吸入，点眼，点鼻，経皮的投与，直腸内投与の特徴を理解し，援助の実際を学ぶ. ・注射の基礎知識を理解する. ・注射準備の実際，および皮下注射，皮内注射，筋肉内注射の実際を学び実践することができる. ・静脈内注射について，ワンショット，翼状針を用いた点滴静脈内注射，静脈内留置針を用いた点滴静脈以内注射の実際を学び実践することができる. また，中心静脈カテーテル留置の介助を理解する. ・輸血管理の基礎知識を理解し，援助の実際を学ぶ.		
授業概要	様々な薬物療法について「薬理学」と関連させながら，薬物療法に関する看護について必要な観察・アセスメント・援助の実際を学びます．講義で学習したことを用いて，演習をします．演習では，シミュレーターを用いて，注射等の実施をします．演習後には，レポート等の提出があります.		
授業計画	内容	方法	
	1．オリエンテーション 与薬の基礎知識，看護師の役割	講義	
	2．経口与薬・口腔内与薬	講義	
	3．様々な与薬法 吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸与薬	講義	
	4．注射に関する基礎知識	講義	
	5．注射の準備	演習	
	6．注射（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射）	講義	
	7・8．注射の実際	演習	
	9．注射（静脈内注射・点滴静脈内注射）	講義	
	10・11．注射の実際	演習	
	12．注射（輸液ポンプ・シリンジポンプ） 中心静脈栄養法	講義	
	13．輸血療法	講義	
	14・15．注射の実際	演習	
使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ　（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　（医学書院）		
参考書			
評価基準方法	授業への参加状況およびレポート等の提出物（20%），筆記試験（80%）を合算し，総合的に評価します.		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	診察援助Ⅱ（診察介助・検査）		
担当教員	今泉 萌泉		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　15時間
科目のねらい	検査・診察の介助を安全に実施できるための基礎的知識について学ぶ.		
到達目標	・対象が安全・安楽に検査・治療を受けるために必要な看護を理解する. ・検査や治療の伴う生活援助の看護を説明できる.		
授業概要	検査を受ける患者の看護に必要な，観察・アセスメント・援助の実際を学びます．講義の後に，学生相互やシミュレーションを用いての演習があります．演習後にはレポートの課題があります.		
授業計画	内容		方法
	1．検査の目的，看護の役割，検体の取り扱い，採血		講義
	2．真空採血管を使用した静脈採血		演習
	3．各種検査の看護（尿・便・喀痰・血液）		講義
	4．各種検査の看護（X線，CT，MRI，超音波，心電図 呼吸機能，核医学，内視鏡）		講義
	5．侵襲的処置の介助技術 （胸腔，腹腔，骨髄，腰椎）		講義
	6．包帯法		演習
	7．真空採血管を用いた静脈採血技術試験		演習
	＊ レポート内容は，患者役，看護師役を通して学んだことを事実をもとに，知識と関連させ根拠づけて記述とする.		
使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　（医学書院）		
参考書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床　看護技術　（医学書院） 看護技術が見えるVOL2　臨床看護技術　（メディックメディア）		
評価基準方法	筆記試験・出席状況・演習レポートをもとに総合的に評価する.		
備考・学生へのメッセージ	教科書・配布プリントで予習復習をし，積極的な姿勢で授業に臨んでください. 常に実際の現場を想定して考えられるよう，一緒に学びを深めましょう.		

科目名	地域・在宅看護概論（家族看護含）		
担当教員	畠山　恵理		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　15時間
科目のねらい	地域・在宅の対象を理解し，地域・在宅看護の概念と看護の役割を学ぶ. 家族看護の基本的な考え方を理解する.		
到達目標	1. 地域・在宅看護の対象を理解する. 2. 地域・在宅看護の役割を理解する. 3. 家族の機能と役割を理解する. 4. 地域の特徴を知り、課題を考えることができる.		
授業概要	地域で生活している療養者とその家族をとりまく社会を知り，地域で行われている看護の基礎的知識を学習します．また、療養者と共にある家族の考え方について学習します.		

授業計画・内容		内容	方法
	1回目	講義の進め方 人びとの暮らしの理解	講義
	2回目	暮らしと地域・社会の変化	講義
	3回目	地域・在宅看護の対象と療養の成立条件	講義
	4回目	地域に暮らす家族の理解	講義
	5回目	地域・在宅における看護の役割	講義
	6回目	暮らしにかかわる社会保障制度	講義
	7回目	地域包括ケアシステムと地域共生社会	講義
	8回目	南空知地域での生活を考える	GW

使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域在宅看護の基盤　地域・在宅看護論1　医学書院 国民衛生の動向
参考書	講義時に提示します.
評価基準方法	成績評価は参加状況，筆記試験，提出物をもとに総合的に評価します.
備考・学生へのメッセージ	地域を知り，療養者に必要な看護の役割について一緒に考えてみましょう.

科目名	成人看護概論		
担当教員	林　美奈子		
配当年度	1年　前期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	ライフサイクルにおける成人各期にある人々を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し，成人期にある人々の健康増進に向けた看護について学ぶ．さらに，成人期の人々への看護支援のために必要な理論を学ぶ．		
到達目標	1．成人期の特徴を人間の発達と生活の側面から理解する． 2. 成人期にある人の健康に及ぼす要因について理解する． 3. 成人期にある人に提供される医療・保健サービスについて理解する． 4. 成人期にある人への看護アプローチの基本について理解する． 5. 成人期にある人の健康を支える看護アプローチの基本について理解する． 6. 健康レベルに対応した看護を学ぶ 7. 成人期にある人の健康問題を解決するために必要な理論について学ぶ．		
授業概要	講義での基本知識の理解を深めるために，事例を考えながら授業を進めます．		

授業計画		内　　容		方法
	1回目	成人とは	人間の成長発達と成人の区分	講義
		成人と生活・対象の理解	成人期の発達課題と関連する理論	
	2回目	成人と生活・対象の理解	青年期の特徴と健康課題	講義　演習
	3回目	成人と生活・対象の理解	壮年期・中年期の特徴と健康課題	講義　演習
	4回目	成人と生活・対象の理解	向老期の特徴と健康課題	講義　演習
	5回目	生活と健康	大人の生活状況の特徴・健康の状況	講義
	6回目	生活と健康	生活と健康をまもりはぐくむシステム	講義
	7回目	健康おびやかす要因と看護⇒生活行動がもたらす健康問題	事例で健康問題について考える	演習
	8回目			
	9回目		発表と全体討議	
	10回目	健康レベルに対応した看護	病期の特徴と看護	講義
	11回目	成人への看護アプローチの基本	アンドラゴジー，行動変容，意志決定支援	講義　演習
	12回目	ストレス	ストレスコーピングプロセス、ストレスマネジメント	講義　演習
	13回目	健康破綻による危機状	危機にある人々への支援，危機理論	講義　演習
	14回目	成人の人々と家族につ	家族機能、家族支援の実際	講義
	15回目	ヘルスプロモーションと看護	ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動	講義

使用テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　成人看護①（医学書院）
参考書	ナーシング・グラフィカ　成人看護学概論　成人看護学①（メディカ出版）
評価基準方法	成績評価は参加状況，筆記試験，提出物をもとに総合的に行う．
備考・学生へのメッセージ	知識を活用して事例について理解し看護を一緒に考えましょう．

科目名	成人看護Ⅰ		
担当教員	林　美奈子・清水　八恵（10時間）　五十嵐　栄理佳（4時間）　土屋　朋美（4時間） 外崎　みさき（4時間）　松田　しほ（4時間）　小野﨑　友佳子（4時間）		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　　30時間
科目のねらい	慢性期にある対象と家族を理解し，セルフケア能力を高める援助方法を学ぶ. 成人期の特性を捉えつつ，長期にわたり自己管理を要することとなった，その人に必要な観察・援助を考えることができる.		
到達目標	慢性期看護の考え方について理解することができる. 慢性期にある人の心理・社会的特徴を理解することができる. 慢性期にある人への看護援助について理解することができる. SMBGとインスリン自己注射の演習から，慢性期にある患者の苦痛や問題と看護の必要性を理解することができる.　生涯にわたる疾病コントロールが必要な人へ具体的に実践されている看護について学ぶことができる.		
授業概要	慢性期看護の特徴と慢性期理論について学び、慢性疾患の看護について学びます.		

授業計画	内容	方法
	≪林講師≫	
	1. 慢性期看護の特徴　心理的サポート　病みの軌跡　事例）糖尿病患者における病みの軌跡	講義　演習
	2. 疾病受容過程　コンプライアンスとアドヒアランス　セルフケア　自己効力感	講義　演習
	3. SMBGの援助　インスリン自己注射の援助	講義
	4. 演習　SMBGの援助と実際　インスリン自己注射の援助と実際	講義　演習
	≪清水講師≫	講義
	5. 慢性疾患を抱えて生活している対象へのリラクゼーションの技法（ヨーガを通して）	演習
	≪五十嵐講師≫	講義
	1.　糖尿病とともに生きる人の看護 (1) 糖尿病の基礎知識：診断・検査・治療・症状・合併症　(2)援助	
	≪土屋講師≫	講義
	2.　心不全とともに生きる人の看護 (1)心不全の基礎知識：診断・検査・治療・症状・合併症 (2)援助	
	≪外崎講師≫	講義
	3. 慢性呼吸不全とともに生きる人の看護 (1) 慢性呼吸不全の基礎知識：診断・検査・治療・症状・合併症　(2)援助	
	≪松田講師≫	講義
	4. 肝硬変とともに生きる人の看護 (1)肝硬変の基礎知識：診断・検査・治療・症状・合併症　(2)援助	
	≪小野﨑講師≫	講義
	5. 腎不全とともに生きる人の看護 (1)腎不全になること・保存期患者の看護・治療選択への支援 (2)血液透析　導入期の看護：患者の生活指導・緊急導入時の看護 (3)維持透析患者の看護：血液透析前・中・後の看護　腹膜透析患者の看護	

使用テキスト	成人看護学　慢性期看護論　鈴木　志津枝（ヌーヴェルヒロカワ）
	系統看護学講座　専門　腎泌尿器　成人看護学⑧　（医学書院）
	系統看護学講座　専門　循環器　成人看護学③　（医学書院）
	系統看護学講座　専門　内分泌代謝　成人看護学⑥　（医学書院）
	系統看護学講座　専門　消化器　成人看護学⑤　（医学書院）
	系統看護学講座　専門　呼吸器　成人看護学②　（医学書院）
参考書	講義時に提示する.
評価基準方法	成績評価は参加状況，筆記試験，提出物をもとに総合的に行う. 点数配分：林講師・清水講師 50%　五十嵐講師 10%　土屋講師 10%　外崎講師 10% 松田講師 10%　小野﨑講師（10%）

科目名	老年看護概論		
担当教員	今泉　萌泉		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　30時間
科目のねらい	高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を理解し，老年看護の特徴と役割を学ぶ．また，高齢者と家族を支える保健医療福祉の動向を学ぶ．		
到達目標	1．「老いる」ということを理解できる．　2．老年期の発達課題が理解できる． 3．加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化について理解できる． 4．日本の高齢社会の特徴と高齢社会の要因が理解できる． 5．高齢者保健の変遷と介護保険制度の成立の背景，概要がわかる． 6．高齢者の権利擁護について理解できる．　7．エイジズムについて考えることができる． 8．老年看護の目標と役割がわかる．		
授業概要	「老い」を生きることの意味について考えると共に，加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を理解し，老年看護の意義と役割，機能を学びます．また，高齢者と家族を支える保健医療福祉制度の重要性について学びます．		

授業計画	内容	方法
	1．老年看護学のねらいと構成 1)老化と加齢について　2)高齢社会と高齢化の現実 3)高齢者が生きてきた時代・高齢者のライフヒストリー 2．高齢者の定義　　:ライフサイクルと発達課題 3．加齢に伴う変化 A．加齢に伴う身体的側面の変化とフィジカルアセスメント 1)循環器系　2)呼吸器系　3)消化器系　4)腎泌尿器系　5)運動器系 6)内分泌系　7)感覚器系　8)脳神経系 B．加齢に伴う心理的側面の変化：知能，パーソナリティー C．加齢に伴う社会的側面の変化：高齢者の社会的孤立 4．高齢者における保健医療福祉の動向 1)保健医療福祉制度の変遷　2)介護保険制度　3)高齢者医療 5．高齢者の権利擁護 1)高齢者に対する差別，エイジズム　2)高齢者と性　3)高齢者虐待 4)身体への拘束　5)権利擁護のための制度 6．認知症について 7．老年看護の目標と役割，高齢者のヘルスアセスメント	1．講義・課題学習 2．講義 3．グループワーク 課題学習・発表 4．講義・グループワーク・課題学習 5・講義・グループワーク・DVD学習 6．講義・DVD学習 7．講義・課題学習

使用テキスト	系統看護学講座　専門　老年看護学　（医学書院），国民衛生の動向（厚生労働統計協会），公衆衛生がみえる　医療情報科学研究所 編　（メディックメディア）
参考書	講義の中で紹介します．
評価基準方法	筆記試験、授業への参加状況をもとに総合的に評価します．
備考・学生へのメッセージ	

科目名	小児看護概論		
担当教員	熊木　美香		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　　15時間
科目のねらい	小児看護の対象となる小児と家族を理解し、小児看護の役割と機能を学ぶ。		
到達目標	1．小児の成長・発達の特徴が理解できる. 2．小児看護に必要な理論を理解する. 3．小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目的が理解できる。 4．小児をとりまく社会状況と動向が理解できる. 5．小児にとっての家族の機能と役割が理解できる. 6．子どもと家族を支援するための法律・施策について説明することができる.		
授業概要	この科目では、小児の特徴について理解し、変化する社会・家族をとらえ、子どもは社会・家族の中で成長・発達する存在であることを学びます。また、子どもの権利を擁護し、子どもと家族にとって最善の利益になるように支える小児看護の役割について学びます。		

授業計画	内容	方法
	第1回　小児看護の特徴と理念 1）小児看護の目ざすところ 2）小児と家族の諸統計	講義
	第2回　3）小児看護の変遷 4）小児看護における倫理 子どもの権利に関する条約・小児看護における倫理 5）小児看護の課題	講義・演習
	第3回　子どもの成長・発達 1）成長・発達の進みかた 2）成長発達に影響する因子	講義
	第4.5回　3）成長・発達の評価 4）小児看護における概念と理論	講義・演習
	第6回　家族の特徴とアセスメント 1）子どもにとっての家族とは 2）家族アセスメント	講義・演習
	第7.8回　子どもと家族を取り巻く社会 1）小児に関する法律・施策 2）母子保健施策 3）学校保健	講義

使用テキスト	系統看護学講座　専門　小児看護学概論/小児臨床看護概論　小児看護学①（医学書院） 国民衛生の動向　（厚生労働統計協会）
参考書	講義の中で紹介します.
評価基準方法	授業への参加状況及びレポート等の提出物 20%，筆記試験 80%を合算し総合的に評価します.
備考・学生へのメッセージ	

科目名	母性看護概論		
担当教員	藤本　沙織		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　　15時間
科目のねらい	母性看護の概念を基盤に，女性のライフサイクル各期の特徴を理解し，女性とその家族が一生を通じて健康に過ごすための母性看護の機能と役割を学ぶ.		
到達目標	1. 母性看護の基盤となる概念について理解できる. 2. 母子保健行政と母性に関する法律について理解できる. 3. 女性のライフサイクル各期の特徴とその看護について理解できる. 4. 現代社会における女性の健康をめぐる課題とその対応について理解できる.		
授業概要	母性看護を展開する上で必要な概念や母性看護に関する施策や法律，女性のライフサイクル各期の看護など母性看護実践する上での基礎的知識を学習します.		
授業計画	内容		方法
	1. 母性の基盤となる概念 1)母性とは　2)母子関係と家族発達　3)セクシュアリティ　4)リプロダクティブヘルス／ライツ5)ヘルスプロモーション　6)母性看護のあり方		講義 課題学習
	2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1)母性看護の変遷　　2)母子保健統計の動向 3)母性看護に関する組織と法律　4)母子保健に関連する施策 5)母性看護の提供システム		講義
	3. 女性のライフステージ各期における看護 1)ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2)思春期の健康と看護　　3)成熟期の健康と看護 4)更年期の健康と看護　　5)老年期の健康と看護		講義
	4. リプロダクティブヘルスケア 1)家族計画　　2)性感染症とその予防 3)HIVに感染した女性に対する看護　4)人工妊娠中絶と看護 5)性暴力を受けた女性に対する看護　6)児童虐待と看護		講義
使用テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　母性看護学(1)　母性看護概論　(医学書院) 公衆衛生がみえる(MEDIC MEDIA) 国民衛生の動向　(厚生労働統計協会)		
参考書	母性看護学Ⅰ女性・家族に寄り添い健康を支えるウィメンズヘルスケアの追求 第2版(医歯薬出版株式会社)		
評価基準方法	授業への参加状況及びレポート等の提出物(20%)，筆記試験(80%)を合算し，総合的に評価します.		
備考・学生へのメッセージ	予習・復習をして講義に臨み，知識の定着に努めてください.		

科目名	精神看護概論		
担当教員	佐藤　かをり		
配当年度	1年　後期	単位数・時間	1単位　15　時間
科目のねらい	ライフサイクルにおける健全な心の発達とそれに影響する要因を理解し，精神の健康を維持・増進・回復のための看護の役割について理解する.		
到達目標	1．精神看護の目的・目標・役割を理解できる. 2．精神の健康問題とライフサイクルについて関連づけることができる. 3．精神医療と看護にかかわる歴史と変遷について理解できる. 4．精神障害のとらえ方，精神看護の基本的な考え方について理解する.		
授業概要	目に見えない精神のとらえ方について知り，精神の健康にかかわる精神看護について理解する．精神の健康や精神の障害，人権擁護について考え，精神看護の目的と役割について学ぶ.		
授業計画	内容	方法	
	1．精神保健の考え方と精神看護 2．ライフサイクルにおける危機と看護 3．心のしくみと人格の発達 4．精神の健康について 5．精神保健の歴史と法制度 6．リエゾン精神看護 7．精神看護の課題と看護の役割について	講義 講義 講義 講義・演習 講義 講義 講義	
使用テキスト	系統看護学講座　専門　精神看護の基礎　精神看護学1　（医学書院） 系統看護学講座　専門　精神看護の展開　精神看護学2　（医学書院） 学生のための精神看護学　（医学書院）		
参考書	国民衛生の動向（厚生労働統計協会） ナーシンググラフィカ情緒発達と精神看護の基本　精神看護学①（メディカ出版）		
評価基準方法	筆記試験，出席状況により総合的に評価する.		
備考・学生へのメッセージ			